

6 指導法改善のポイント 【小学校第6学年（国語）】

◆ 授業改善のポイント

- 児童が主体的に言語活動に取り組むには、活動の目的や意図を明確にもつことが大切である。そのために、相手や場面を意識させたり、「何のために？」と問いかけたりする。また、メモや付箋などで情報を可視化し整理したり、振り返りを通して内容や方略をメタ認知したりする機会を多く位置付ける。
- 児童の言語活動を充実させるためには、使用できる語彙を豊かにすることが大切である。特に、〔知識及び技能〕に示す「言葉の特徴や使い方に関する事項」を指導する際には、学習の中で必要となる多様な語句を取り上げ、話や文章の中でどのように使用されているか、自分が理解したり表現したりするときにどのように用いればよいのかについて考えられるように、意図的・計画的に指導する。

◆ 正答の状況

年 度		令和7年度	令和6年度
平均正答数	県	9.3 問 / 14 問	9.6 問 / 14 問
	全国	9.4 問 / 14 問	9.5 問 / 14 問
平均正答率	県	67%	69%
	全国	66.8%	67.7%

◆ 今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成 果：目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書く力が高まってきている。

課題①：インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動において、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりする力が不十分である。

課題②：文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを話し合ったり文章にまとめたりする活動において、目的に応じて、必要な情報を見付ける力が不十分である。

◆ 成果が見られた問題の概要

【設問の概要】

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、図表を用いるなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

山田さんは、【ちらし】の書き表し方について友達に相談し、【ちらし】の —— 部「手ぬぐい」は、いろいろな物を包むことができます。」をくわしく書いたほうがよいと考え、次の【調べたこと】を見直しました。あなたが山田さんなら、どのように書き直しますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 【ちらし】の —— 部を書き直し、くわしくすること。
- 【調べたこと】の〈本を読んで分かったこと〉と〈使ってみて分かったこと〉のそれぞれから言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

【調べたこと】

- | | |
|--|---|
| <p>〈本を読んで分かったこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ブックカバー <ul style="list-style-type: none"> ・何冊か新着だけで、すぐに完成する。 ・本の大きさに合わせて包むことができる。 ○ペットボトルカバー <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルを包んで持ち運ぶことができる。 | <p>〈使ってみて分かったこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ブックカバー <ul style="list-style-type: none"> ・よこがけのつくりを防ぐことができよかった。 ・落としたときに、本がきずつかなかった。 ○ペットボトルカバー <ul style="list-style-type: none"> ・水で濡れたペットボトルにつかなくてよかった。 ・温かい飲み物が冷めにくかった。 |
|--|---|

【ちらし】

手ぬぐい

手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。そのよさは、どのようなものでしょう。

よさ1 もよう

さまざまなよさがあり、好きなよさを選ぶことができます。おくり物にしてもぴったりです。

季節を感じるもよう

手ぬぐいには、植物や風景をもとにしたものがあります。相手に合わせて手ぬぐいを選ぶことができます。

しみやすきなものに合わせたもよう

スポーツや音楽などに関係するものも手ぬぐいもあります。相手のよさのみに合わせて、もようを選び、おくることができます。

よさ2 使い方

手などふくだけではなく、身に巻いたり、物を包んだりすることもできます。

身に巻ける使い方

あたたかい日には、水でぬらして首にまき、すずしく感じます。また、雨で作業をするときに腰にまき、あせをきゅうしゅうし、両手を空くので仕事しやすいです。

物を包む使い方

手ぬぐいには、いろいろな物を包むことができます。

このように、手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。みなさんもぜひ使ってみてください。

設問番号 2-3 「書くこと」(思考・判断・表現)				
平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	64.4	56.3	+3.1	

(正答の条件)

次の条件を満たして回答している。

- ①【ちらし】の二重傍線部を書き直し、詳しくしている。
- ②【調べたこと】のうち、以下のことから言葉や文を取り上げて書いている。
 - a <本を読んで分かったこと>
 - b <使ってみて分かったこと>
- ③ 60 字以上、100 字以内で書いている。

【解答類型と本県反応率】

正答	解答類型	反応率(%)	自校
◎	条件①, ②a, b の両方, ③を満たしているもの	64.4	
	条件①, ②a, b の両方は満たしているが, 条件③は満たしていないもの	0.3	
	条件①, ②a は満たしているが, 条件②b は満たしていないもの ※③は不問	8.6	
	条件①, ②b は満たしているが, 条件②a は満たしていないもの ※③は不問	12.8	
	条件①は満たしているが, 条件②a, b は共に満たしていないもの ※③は不問	7.3	
	上記以外の解答	3.2	
	無解答	3.2	

【指導継続のポイント】

- 「書くこと」の学習において、自分の考えが明確に伝わるように、どのような言葉を用いるか、語や文及び段落の続き方やつながりをどのように表現するかなど、習得した知識・技能を生かしながら記述の仕方を工夫する。
- 記述した文や文章について、読み手の立場からどこを詳しくすれば目的や意図に応じた文章になるのかということを中心に、友達とアドバイスし合ったり話し合ったりしながら考えを深める場面を設定する。また、書き直しや推敲を重ねながらよりよい表現をめざす時間を確保する。

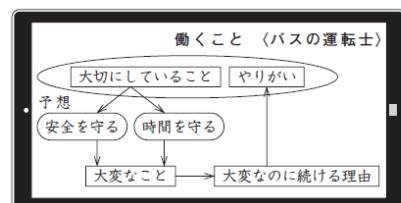
◆ 課題が見られた問題の概要①

【設問の概要】

目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。

【話し合いの様子】の小森さんは、インタビューをどのように進めようと考えて、——部の発言をしましたか。最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。
- 2 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、相手が答えやすい内容を選ぶようにしている。
- 3 複数の質問を関連づけて聞くことで、相手が答えやすい内容を選ぶようにしている。
- 4 複数の質問を関連づけて聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。



【話し合いの記録】

小森さん 質問すること整理するために、話し合ったことを記録するね。私は、運転士さんがどんなことを大切にしているかを知りたいな。きつと、乗客の安全を大切にしていると思うな。

町田さん 安全を考えたが、時間を守ることは、大変そうだな。

清川さん 確かに、大変そうだね。「仕事で大切にしていること」で話してくれたことをきっかけにして、「仕事で大変なこと」を聞くことができるかもしれないよ。

清川さん バスの運転士は、楽しそうだなと思っていたけど、大変な理由も聞きたいな。

町田さん きつと仕事にやりがいがあるからだよ。

清川さん ぼくもそう思うな。大切にしていることとやりがいについて、働くことについて考えるためにもぜひ聞きたいね。

小森さん うん、そうしよう。「ここまで話し合いの記録をこんなふうにまとめたよ。この進め方いいかな。」

設問番号	「話すこと・聞くこと」(思考・判断・表現)			
平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	49.6	53.3	-3.7	

【解答類型と本県反応率】

正答	解答類型	反応率(%)	自校
	1と解答しているもの	9.6	
	2と解答しているもの	12.9	
	3と解答しているもの	27.4	
◎	4と解答しているもの	49.6	
	上記以外の解答	0.0	
	無解答	0.4	

【問題点】

- 進行係の小森さんの発言から、「自分たちが聞きたい質問を考える」という目的や意図よりも、「相手が答えやすいように質問を考えている」と捉えるなど、集めた材料と目的や意図を関係付ける力が十分に身に付いていないことなどが考えられる。

【改善点】

- 「インタビューで質問する」という目的や意図に応じて、内容ごとにまとめたり、それら互いに結び付けて関係を明確にしたりする。必要に応じて、ICTを活用し、話し合いの様子を記録に残し、フィードバックすることで、質を高めていく。
- 「インタビューで質問すること」について話し合う際には、常に目的を明確にするとともに、インタビューする場面や状況について意識することも大切にする。

国語【中学校第3学年】

◆ 授業改善のポイント

- 生徒が主体的に言語活動に取り組む際には、活動の目的や意図を明確にもつことが大切である。そのために、ICTや学校図書館を活用しながら対話する機会を設定したり、書く活動を位置付けるなかで思考を深めたりする。また、相手意識を明確にした必要感のある（例えば実生活と結び付く）ゴールを設定する。
- 生徒の言語活動を充実させるためには、使用できる語彙を豊かにすることが大切である。「共有」の場面で、自分の考えの根拠を明確に述べたり、他者との対話（「問い返す」「つなげる」など）を取り入れたりしながらよい点や改善点を具体的に検討する。その際、「知識及び技能」（言葉の特徴や使い方に関する事項など）に焦点を当て、中核的概念の理解につなげていく。

◆ 正答の状況

年 度		令和7年度	令和6年度
平均正答数	県	7.5 問 / 14 問	8.4 問 / 15 問
	全国	7.6 問 / 14 問	8.7 問 / 15 問
平均正答率	県	53%	56%
	全国	54.3%	58.1%

◆ 今回の調査結果から明らかになった成果と課題

- 成 果：物語の展開や描写を踏まえ、登場人物の設定の意図を読み取る力が高まっている。
- 課題①：伝えたい内容に応じたスライドの工夫や、その意図を明確にする力が不十分である。
- 課題②：文章の推敲において、適切な修正とその理由を明確に説明する力が不十分である。

◆ 成果が見られた問題の概要

【設問の概要】

文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる。

次の文章は、島崎藤村が書いた「二人の兄弟」という物語です。この物語は、「一 榎木の実」、「二 釣の話」で構成されています。

—— 線部①「二人の兄弟」は、この物語の中でどのような性格の人物として描かれていますか。「一 榎木の実」と「二 釣の話」を通して分かる性格を、それぞれ書きなさい。

（正答の条件）

次の条件を満たして回答している。

- ① 兄の欄に「気が長い」のように解答している。
- ② 弟の欄に「気が短い」のように解答している。

【指導継続のポイント】

設問番号 3-2 「読むこと」（思考・判断・表現）				
平均正答率	本県	全国	差	自校
(%)	90.0	89.9	+0.1	

【解答類型と本県反応率】

正答	解答類型	反応率(%)	自校
◎	条件①, ②を満たして解答しているもの	90.0	
	条件①を満たし、条件②を満たさずに解答しているもの	1.5	
	条件②を満たし、条件①を満たさずに解答しているもの	1.5	
	上記以外の解答	3.3	
	無解答	3.6	

- 「読むこと」の学習において、教科書教材の読みでとどまらず、単元に並行読書を位置付け、多様な作品（同じ作者の本、同じテーマの本など）を読む機会を設定するなかで、「性格を表す語句」に着目して、登場人物の性格を捉える学習を行う。

※「性格を表す語句」：「小学校第3・4学年〔知識及び技能〕(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項「語彙」

- 集めた語句を分類するなどして、概念的な理解を深められるようにしたり、文章中に用いられている細部の描写を、自分の表現活動に生かしたりする。

◆ 課題が見られた問題の概要①

【設問の概要】

資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。

村田さんは、【村田さんのスピーチ】の内容をより分かりやすく伝えるために、〈スライド⑤〉を工夫したいと考え、あなたに助言を求めています。あなたなら、どのような助言をしますか。あとの「工夫の仕方」のAからCまでのの中から1つ選び（どの「工夫の仕方」を選んでもかまいません。）、条件1と条件2にしたがって、村田さんへの助言を書きなさい。

【村田さんのスピーチ】

私は、「マリープロジェクト」をもとにしたアイデアを考えました。「マリープロジェクト」は、皆さんも知っているとおり、環境委員会が参加者を募って行っている、マリーゴールドを育てる活動です。参加したことがない人も、登下校のとき、きれいに咲いたマリーゴールドの花に、心が和んだこともあるのではないのでしょうか。マリーゴールドは、苗から育てることが多いのですが、この活動では、採取した種から育てています。

ここで、〈スライド①〉を提示

スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。咲いた花を楽しむだけではなく、手入れをしながら成長を見守ることに魅力を感じ、私は、1年生のときからこの活動に参加しています。

ここで、〈スライド②〉を提示

これは、実際に採取したマリーゴールドの種です。次のシーズンに学校で育てる分を確保したあと、家で育てたい参加者は種をもらって帰ります。私も、種をもらって、家族と一緒に育てています。ただ、

みんなが持ち帰ったとしても、採取した種は残ってしまいます。……あ、1年間で採取した種のうち、半分以上は残ってしまうのです。そこで、考えたのが、今行っている活動を発展させた「つなごうマリープロジェクト」です。

ここで、〈スライド③〉を提示

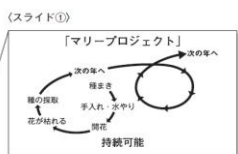
このプロジェクトの長所は、まず、残ってしまう種を活用できることです。そして、地域の方にも、花を育てる楽しみを味わってもらえます。しかも、マリーゴールドの種は毎年採取できるので、このプロジェクトも持続可能です。

ここで、〈スライド④〉を提示

このプロジェクトの内容は、残った種を地域の希望する方にも配るということです。例えば、地域の方が来校する学校行事や、私たちが参加する地域の行事などで配りたいと思います。育ててくださる地域の方のために、残った種から発芽しやすいものを選び、育て方のポイントを書いたカードと一緒に渡します。

ここで、〈スライド⑤〉を提示

今行っている活動を工夫することで、私たちのマリーゴールドと、花を育てる楽しみが地域にも広がります。学校と地域が、マリーゴールドでつながったら、すてきだと思いませんか。これで、私の発表を終わります。



〈スライド③〉

「つなごうマリープロジェクト」の長所

- 残った種を活用できる
- 地域の方にも楽しんでもらえる

こちらも持続可能

〈スライド④〉

「つなごうマリープロジェクト」の内容

- 残った種を地域の希望者に配布
- ・学校行事や地域の行事で
- ・育て方のポイントを書いたカードを添えて



設問番号	2-4 「話すこと・聞くこと」 (思考・判断・表現)			
平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	22.3	23.2	-0.9	

(正答の条件) 次の条件を満たして回答している。

- ① 【工夫の仕方】のA,B,Cのいずれか一つを選んで、その記号を塗り潰している。
- ② 選んだ【工夫の仕方】について、どのように工夫するかを具体的に書いている。
- ③ 工夫することで、どのように分かりやすくなるかを書いている。
- ④ ③について、[]の内容を適切に取り上げて書いている。

(正答例)

- A スライドの下余白に、「花を育てる楽しみを地域へ」を書き加える。そうすることで、花を育てる楽しみが地域にも広がることが強調されて伝わりやすくなる。
- B 地域の人たちと中学生が、笑顔でマリーゴールドの手入れをしているイラストに変更すると、「学校と地域が、マリーゴールドでつながった」時の様子が、視覚的にも伝わると思いました。
- C 中学生が地域の方に種を手渡しているイラストに修正して、その下に、「花を育てる楽しみを地域へ」と書き加えると、残った種を活用した活動で花を育てる楽しみを広げようとしていることが、よりわかりやすくなると思った。

【解答類型と本県反応率】

正答	解答類型	反応率 (%)	自校
◎	条件①, ②, ③, ④を満たして解答しているもの	22.3	
	条件①, ②, ③を満たし、条件④を満たさないで解答しているもの	20.7	
	条件①, ③, ④を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	4.1	
	上記以外の解答	48.7	
	無解答	4.3	

【村田さんのスピーチ】の []

今行っている活動を工夫することで、私たちのマリーゴールドと、花を育てる楽しみが地域にも広がります。学校と地域が、マリーゴールドでつながったら、すてきだと思いませんか。

〈スライド⑤〉



【問題点】

より分かりやすく伝えたい部分を取り上げ、その部分に対応するスライドの工夫を具体的に考えたり、そのように工夫する意図を明確にしたりすることができていない。

【改善点】

「話すこと・聞くこと」の学習において、資料や機器を用いて、自分の考えを表現したり共有したりする学習を位置付ける。その際、次の点に留意する。

- 表現する際には、複数の資料を関連付け、必要な箇所に線を引くなどしながら、工夫を考える。様々な工夫の仕方があることを踏まえ、工夫に応じた資料の選択にも取り組んでいく。
- 共有する際には、事前に「分かりやすく」とは何かを確認し合い、相互の考えを述べるようにする。その際、根拠資料を用いて具体的に分析していく。必要に応じて、ICTを活用し、共有の様子を記録に残し、フィードバックすることで、共有の質を高めていく。

- ・話の内容を踏まえ、話の要点や根拠が明らかになっているか
- ・説明が不足していないか
- ・中心となる事柄が強調されているか など

◆ 課題が見られた問題の概要②

【設問の概要】

読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。

三上さんは、さらに推敲を重ねようとしています。あなたなら、【手紙の下書きの一部】の、どの部分をどのように修正しますか。三上さんの修正の仕方を参考にして、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1: 修正した方がよい部分は複数ありますが、言葉の使い方や叙述の仕方などについて、あなたが特に修正した方がよいと考える部分を一つ選ぶこと。なお、【手紙の下書きの一部】の内容は、変わらないようにすること。

条件2: 修正する際は、削除したり書き直したりしたい部分を線で消し、書き直す場合は、消した言葉の右横に、どのように直すのかを書くこと。

条件3: 修正した方がよいと考えた理由を具体的に書くこと。なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【手書きの下書きの一部】

さて、昨日は、私たちの職場体験活動に協力してくれてありがとうございました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。

この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていなかったのですが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

設問番号	4-2「書くこと」(思考・判断・表現)			
平均正答率(%)	本県	全国	差	自校
	29.6	30.1	-0.5	

(正答の条件) 次の条件を満たして回答している。

① 削除したり、書き直したりしたい部分の一つ決めて、以下のような適切な修正をしている。

- a 長い分を修正している。
- b 語句を修正している。
- c 語順を修正している。

② 修正した方がよいと考えた理由を、誤りなく具体的に書いている。

【解答類型と本県反応率】

正答	解答類型	反応率(%)	自校
◎	条件①a, ②を満たして解答しているもの	11.6	
◎	条件①b, ②を満たして解答しているもの	17.9	
◎	条件①c, ②を満たして解答しているもの	0.1	
	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	11.6	
	条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	17.8	
	上記以外の解答	22.9	
	無解答	18.3	

条件①a, ②を満たして解答しているもの

(例)	【手紙の下書きの一部】
文が長いので、読みづらく、体験活動の前と後での変化も伝わりにくいから。	さて、昨日は、私たちの職場体験活動に協力してくれてありがとうございました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていませんでした。しかし、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

条件①b, ②を満たして解答しているもの

(例)	【手紙の下書きの一部】
謙譲語を使うことで、敬う気持ちが伝わると思うから。	さて、昨日は、私たちの職場体験活動に協力してくれてありがとうございました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていませんでした。皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

条件①c, ②を満たして解答しているもの

(例)	【手紙の下書きの一部】
「〇〇〇」が「下処理したり」に係ることをはっきりさせるため。	さて、昨日は、私たちの職場体験活動に協力してくれてありがとうございました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていませんでした。皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を一つ一つ下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

【問題点】

・適切な修正をすることができていなかったり、なぜその部分を修正した方がよいと考えたのか理由を適切に述べるできていなかったりしている。

【改善点】

「書くこと」の学習において、自分の書いた文章を読み、推敲する過程を位置付ける。その際、次の点に留意する。

- 「[知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項「文や文章」「言葉遣い」との関連を図り、「指示する語句」や「接続する語句」、「敬語の働き」に着目して、適切な語句を選択するようにする。
- 文章を整えた後、共有する過程や振り返りを行う時間を確保し、自分の考えの根拠を明確に表現する機会を設定する。その際、教師による具体的な価値付けを行っていく。

算数【小学校第6学年】

◆ 授業改善のポイント

児童自らが問いをもち、言葉・図・式・表・グラフなどを含む学習課題を読み取り、それらを関連付けながら問題解決を図るとともに、解決の過程を根拠を示しながら説明し、自分の考えを他者と確かめ、よりよい解決方法を見いだす活動を取り入れた授業設計を行うことが重要である。

◆ 正答の状況

年 度		令和7年度	令和6年度
平均正答数	県	9.2問 / 16問	10.0問 / 16問
	全国	9.3問 / 16問	10.1問 / 16問
平均正答率	県	57%	62%
	全国	58.0%	63.4%

◆ 今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成 果：図形領域における知識・技能の定着が図られている。

課題①：目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を説明することに課題がある。

課題②：分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が共通する単位分数のいくつ分かを記述することに課題がある。

◆ 成果が見られた問題の概要

(3) わかなさんは、図1の㊸の角と図2の㊹の角の大きさを比べています。
図2の㊹の角をつくっている2つの辺は、図1の㊸の角の2つの辺をそれぞれ伸ばしたものです。

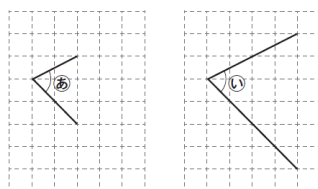


図1

図2

㊸の角と㊹の角の大きさについて、どのようなことがわかりますか。
下の ア から エ までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア ㊸の角の大きさのほうが大きい。
イ ㊹の角の大きさのほうが大きい。
ウ ㊸の角と㊹の角の大きさは等しい。
エ ㊸の角と㊹の角の大きさがわからないので、このままでは比べることができない。

設問番号	2 (3)	B 図形	(知識・技能)		
平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校	
	81.3	79.3	+2.0		

【解答類型と本県反応率】

正答	解答類型	反応率(%)	自校
	ア と解答しているもの	2.5	
	イ と解答しているもの	4.4	
◎	ウ と解答しているもの	81.3	
	エ と解答しているもの	10.6	
	無解答	0.6	

【指導継続のポイント】

○ 角をつくる辺の長さの大小と角の大きさの大小とを混同せず、辺の開き具合に着目して比べることができており、正答率は81.3%と全国平均正答率よりも高い。辺の長さや角の大きさ、辺の位置関係に着目して、図形の構成を考えたり、筋道立てて考察したりする学習がなされた成果と考えられる。

◆ 課題が見られた問題の概要①

【設問の概要】

都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く。

設問番号	1 (2)	D データの活用	(思考・判断・表現)		
平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校	
	30.4	31.0	-0.6		

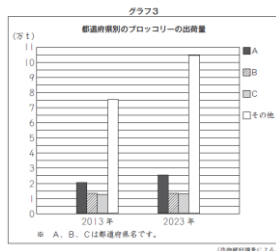
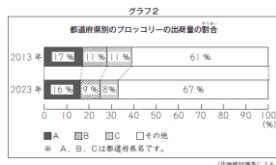
- (2) あいりさんは、自分たちが住んでいる都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、右のグラフ2とグラフ3を見つけました。



グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか1つのグラフを見れば、都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかわかります。

2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。
また、その記号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したのかわかるようにしましょう。

- ア 2023年は2013年より増えた。
イ 2023年は2013年より減った。



(正答の条件) 記号アを選び、次の①、②の全てを書いている。

- ① グラフ3に着目したことを表す言葉、② 2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より多いことを表す言葉

【問題点】

出荷量の増減について判断することはできている(75.2%)が、どのグラフに着目し、グラフから読み取ったデータの特徴や傾向を分かりやすく表現するなど、増減を判断した根拠を言葉や数を用いて記述することができていない。

【改善点】

指導に当たっては、本設問を用いて、帯グラフや棒グラフからどのような傾向が読み取れるのかを話し合う活動が考えられる。その際、グラフのどの部分、どの数値に着目した結果どのようなことが読み取れたのかを説明し合うなど、自分の考えを根拠を明らかにしながら説明できるようにすることが大切である。

◆ 課題が見られた問題の概要②

- (2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。
まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の2個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の1個分です。
 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、2 + 1 を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。
もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。
もとにする数を同じ数にすると、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

【設問の概要】

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く。

設問番号 3 (2)

A 数と計算 (思考・判断・表現)

平均	本県	全国	差	自校
正答率 (%)	21.4	23.0	-1.6	

(正答の条件)

① $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ に共通する単位分数が $\frac{1}{12}$ であることを表す数や言葉

② $\frac{3}{4}$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉

③ $\frac{2}{3}$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉

【解答類型と本県反応率】

正答	解答類型	反応率 (%)	自校
◎	①、②、③	21.4	
	①	5.6	
	通分について書いている	29.3	
	上記以外	31.3	
	無解答	12.3	

【問題点】

大問3(4)異分母の分数の加法の計算は正答率が82.8%あることから、計算の手順としての通分は理解しているが、通分の概念的理解が不十分であり、2つの分数が共通する単位分数のいくつ分かを記述することができない。

【改善点】

異分母の分数の加法の指導に当たっては、児童が「同じ大きさの1」をつくる必要性に気付くようにし、加法の計算について、考え方を言葉や図、式で説明する活動を取り入れ、考え方を比較・統合しながら概念的に理解できるようにする。その際、数の表し方の仕組みや構成する単位に着目して共通する単位分数を見いだすことにより既習の整数の加法に帰着できることに児童が気付くようにすることが大切である。

数学【中学校第3学年】

◆ 授業改善のポイント

生徒自らが問いをもち、言葉・図・式・表・グラフなどを含む学習課題を読み取り、それらを関連付けながら問題解決を図るとともに、解決の過程を根拠を示しながら説明し、自分の考えを他者と確かめ、よりよい解決方法を見いだす活動を取り入れた授業設計を行うことが重要である。

◆ 正答の状況

年 度		令和7年度	令和6年度
平均正答数	県	6.7問 / 15問	8.0問 / 16問
	全国	7.2問 / 15問	8.4問 / 16問
平均正答率	県	45%	50%
	全国	48.3%	52.5%

◆ 今回の調査結果から明らかになった課題

課題①：数学の用語の意味の理解に課題がある。

課題②：連続する3の倍数の和について、与えられた式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

課題③：平行四辺形において、統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することに課題がある。

◆ 課題が見られた問題の概要①

【設問の概要】

一次関数において、変化の割合を基に x の増加量に対する y の増加量を求める。

一次関数の $y=6x+5$ の変化の割合は6です。この一次関数について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求めなさい。

【問題点】

- 変化の割合の意味や、一次関数の変化の割合が一定であることを理解できていない。
- x の増加量と x の値を誤認している。
- 変化の割合が、 $\frac{y \text{ の増加量 }}{x \text{ の増加量 }}$ で求められることから x の増加量に対する y の増加量を求めることができない。

設問番号	4	関数	(知識・技能)		
平均正答率 (%)		本県	全国	差	自校
		29.8	34.7	-4.9	

【解答類型と本県反応率】

正答	解答類型	反応率(%)	自校
◎	12と解答しているもの	29.8	
	6と解答しているもの	5.7	
	17と解答しているもの	33.1	
	2と解答しているもの	3.8	
	3と解答しているもの	3.6	
	5と解答しているもの	0.9	
	上記以外の解答	15.6	
	無解答	7.5	

【改善点】

指導に当たっては、一次関数について、表、式、グラフを関連付けて、 x の値の変化に伴って、 y の値がどのように変化するかを調べる活動を通して、変化の割合の意味や一次関数の変化の割合が一定であることを理解できるように指導する。その際、「 x の増加量が2のときの y の増加量」と「 x の値が2ときの y の値」を求める活動を取り入れることにより、 x の増加量から y の増加量を求めることと、 x の値から y の値を求めることとの過程や結果を比べ、それらの違いを捉えられるようにすることが大切である。

◆ 課題が見られた問題の概要②

【設問の概要】

$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する2つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する。

(2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気付いた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は n を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表して、それらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形の $3(2n+1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことが分かります。

太一さんの式の変形の $2(3n+1)+1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「～は、…である。」という形で書きなさい。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

(正答の条件)

「〇〇は、◆◆である。」という形で、次の(a),(b)について、記述しているもの。

(a) 〇〇が、「連続する2つの3の倍数の和」である。

(b) ◆◆が、「奇数である。」

設問番号 6 (2) A 数と式
(思考・判断・表現)

平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	19.1	25.7	-6.6	

【解答類型と本県正答率】

	正答	解答類型	反応率(%)	自校
1	◎	(a),(b)について記述しているもの	6.4	
2	○	(a)についての記述が十分でなく、(b)について記述しているもの。または、(b)のみを記述しているもの	0.7	
3	◎	(a)について記述し、(b)以外で $2(3n+1)+1$ から読み取れる事柄を記述しているもの	10.8	
4	○	上記3について、(a)についての記述が十分でないもの。または、(a)についての記述がないもの	1.1	
5		上記1～4以外で、 $2(3n+1)+1$ から読み取れないが、連続する2つの3の倍数の和について成り立つ事柄を記述しているもの((a)についての記述が十分でないものや、(a)についての記述がないものを含む)	17.9	
6		成り立たない事柄を記述しているもの	14.1	
99		上記以外の解答	24.4	
0		無解答	24.5	

【問題点】

与えられた式の意味を読み取ることができず、事象の特徴を数学的に説明することができない。

【改善点】

指導に当たっては、本設問を用いて、連続する2つの3の倍数の和がどのような数になるか文字式を用いて考察する活動を通り入れる。具体的には、連続する2つの3の倍数を、 $3n$ 、 $3n+3$ とし、その和 $6n+3$ がどのような式に変形できるか、変形した式からどのようなことがいえるかを考察し、他者に分かりやすく説明する活動を取り入れる。説明する場面では、「2つの連続する3の倍数の和は、奇数の3倍になる」のように見いだした事柄を、前提と結論を明確にして表現できるようにすることが大切である。

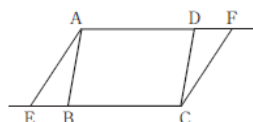
◆ 課題が見られた問題の概要③

【設問の概要】

平行四辺形 ABCD の辺 BC, DA を延長した直線上に $BE=DF$ となる点 E, F をとって、四角形 AECF は平行四辺形になることの証明を完成させる。

(2) 次の図2のように、平行四辺形 ABCD の辺 CB, AD を延長した直線上に、 $BE=DF$ となる点 E, F をそれぞれとって、四角形 AECF は平行四辺形になります。このことは、前ページの証明1の一部を書き直すことで証明できます。書き直すことが必要な部分を、下のアからオまでのの中から1つ選び、正しく書き直さない。

図2



ア	平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、 $AD \parallel BC$ よって、 $AF \parallel EC$ ……①
イ	平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、 $AD = BC$ ……②
ウ	仮定より、 $DF = BE$ ……③
エ	②、③より、 $AD - DF = BC - BE$ ……④
オ	④より、 $AF = EC$ ……⑤ ①、⑤より、 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、 四角形 AECF は平行四辺形である。

【問題点】

平行四辺形において、条件を変更した場合、もとの証明のどこをどのように変更すれば、正しい証明となるのかが分からない生徒が 50.8%，変更する部分は分かっていても、どのように変更すればよいかが分からない生徒が 20.4%おり、統合・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができていない。

【改善点】

指導に当たっては、条件を変える前と変えた後の証明を比べて、関係が変わらず成り立つものに着目し、統合的・発展的に考察できるようにすることが大切である。本設問を用いて、証明したことを基に、条件を変えた場合の証明について考察する場面を設定し、条件を変えたことによりできた図と元の証明とを関連付けて考察し、条件を変えても変わらない関係や、条件を変えると変わる関係を見だし、元の証明をどのように改善すればよいか考えるような活動を取り入れることが考えられる。

設問番号	9	(2) B	図形	(思考・判断・表現)
平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	28.8	36.3	-7.5	

【解答類型と本県正答率】

正答	解答類型	反応率(%)	自校
◎	エを選択し、②、③より $AD+DF=BC+BE$ …④と記述しているもの	28.8	
	エを選択し、上記以外の解答をしているもの	14.2	
	エを選択し、無解答	6.2	
	ア、イ、ウ、オのいずれかを選択し、記述しているもの	29.1	
	ア、イ、ウ、オのいずれかを選択し、無解答	13.7	
	上記以外の解答	0.6	
	無解答	7.3	

大問9 授業アイデア例(令和7年度全国学力・学習状況調査【中学校数学】報告書より)

nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mmath_idea_09.pdf#page=9



理科【小学校第6学年】

◆ 授業改善のポイント

- 単元など内容や時間のまとまりを見通して、主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、「どの場面・過程において、どのような理科の見方・考え方を働かせるか」を視点に授業デザイン、授業改善を継続していく必要がある。
- 事象提示の場面では、自然の事物・現象から事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにして、問題を見出させるようにする。
- 予想・実験企画の場面においては、変える条件や変えない条件に着目し、整理しながら実験を計画させることや予想・仮説を基に、条件を制御した場合の結果の見通しについての話し合い等を行い、児童自ら条件を制御した計画を立てさせるようにする。
- 考察の場面では、表やグラフなどに整理する活動を設けることで、結果を比較したり、複数の結果から多面的に考えたりして、自分の考えを表現できるようにする。

◆ 正答の状況

年 度		令和7年度	令和4年度
平均正答数	県	10.2 問 / 17 問	11.4 問 / 17 問
	全国	9.7 問 / 17 問	10.8 問 / 17 問
平均正答率	県	60%	67%
	全国	57.1%	63.3%

◆ 今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成 果：観察、実験のまとめを導き出す際、その方法が適切であったかを検討し、表現する問題について、一定の成果が見られる。

課題①：電気が通る回路のつくり方等、基礎的・基本的事項を問う「知識・技能」に関する問題について、正答率が低いものがある。

課題②：発芽の条件等、差異点や共通点を基に新たな問題を見だし、表現する問題の正答率が低い。

◆ 成果が見られた問題の概要

【設問の概要】水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出すために、調べる必要があることについて検討して表現することができるかを問う。

4(1) 吹き出しの(ア)にあてはまる言葉を書きましょう。

【結果】 温める前のようす

温めたときのようす



ゆういち

【問題に対するまとめ】

ビーカーの底の中心を温めたとき、水の温められた部分が上に移動して、全体が温まる。

ゆういちさんがまとめてくれて気づいたのだけど、この実験の【結果】だけでは、そのようなまとめはできないと思うな。この実験では、水の(ア)について調べていないのだから。



ひろみ

設問番号 4(1)【4年】A物質・エネルギー(2)金属、水及び空気の状態

平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	53.8	50.6	+3.2	

【解答類型と本県反応率】

正答	解答類型	反応率 (%)	自校
◎	水の温められた部分の温度	53.7	
	ビーカーの水の味噌の動き	18.7	
	水や味噌の量	3.3	
	上記以外	21.1	
	無回答	3.2	

【指導継続のポイント】

科学的に問題を解決するためには、計画した実験方法が予想したことを確かめられるものになっているかを検討して、改善することが大切である。指導に当たっては、問題解決の様々な場面で、計画した実験が予想を確かめられるのかについて検討したり、改善したりする学習活動が考えられる。

例えば、「解決の方法を発想する場面」、「実験を行い、その結果や方法を振り返る場面」、「問題に対するまとめを導き出す場面」等の場面をしっかりと設定し、充実させる取組を継続してほしい。

◆ 課題が見られた問題の概要①

【設問の概要】 電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかをみる。

2

(2)「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね（ベル）が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。1から4までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

設問番号	2(2) A	物質・エネルギー
平均正答率 (%)	本県 42.4	全国 42.9 差 -0.5 自校

【解答類型と本県反応率】

正答	解答類型	反応率 (%)	自校
	1	8.1	
	2	18.3	
	3	30.8	
◎	4	42.4	
	上記以外	0.2	
	無回答	0.2	

【問題点】

誤答した児童は、電気が通る回路のつくり方に関して理解、表現できていない。(平均正答率 42.4%)

【改善点】

「ものづくり」と「言葉や図での表現」との往還でより深い理解へ

- ものづくりの活動は、解決したい問題を見いだすことや、学習を通して得た知識を活用して、理解を深めることに適している。その際、児童が明確な目的を設定し、その目的を達成できているかを振り返り、修正するといった活動の充実を図ることで、理科学習の意義を実感できるようにすることが重要である。とりわけ、ものづくりでできた装置を言葉や図に表現したり、言葉や図から装置を再構成したりするなどして、学習を通して得た知識の理解を深めたい。
- 例えば、本問については、つくりたいものを構想する前の実験企画の場面で、「磁石の性質」と「電気の通り道」などで習得した知識を整理してまとめたり、構想したとおりになっているかを点検、修正する振り返りを行ったりする活動等が想定される。

◆ 課題が見られた問題の概要②

【設問の概要】 レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかをみる。

3

(4) 水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために必要な条件を、〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい「問題」を1つ書きましょう。

たかひろさんが行った実験

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

設問番号	3(4) 【5年】 B	地球・生命(5)電気の回路
平均正答率 (%)	本県 36.3	全国 29.9 差 +6.4 自校

【解答類型と本県反応率】

正答	解答類型	反応率 (%)	自校
◎	レタスの種子が発芽するために、日光(肥料)は必要なのだろうか。	36.3	
	レタスの種子が発芽するために、水(空気、温度)は必要なのだろうか。	0.8	
	日光(肥料)をありにする。(種子の発芽の問題としての表現できず)	27.8	
	上記以外	28.6	
	無回答	6.4	

【問題点】

誤答した児童は、既習の植物の発芽の条件との差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができていない(平均正答率 36.3%)。

【改善点】

考察もしくは振り返りにより「新たな疑問」を見いだす

- 観察、実験の結果を比較して、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目した問題を見いだす場面を設定することが重要である。
- 例えば、本問については、発芽する前後のインゲンマメの種子にヨウ素液をつけ、でんぷん反応を確認し、発芽した後の種子からはでんぷん反応がない結果から、考察もしくは振り返りの場面で、「インゲンマメが成長するためには、肥料や日光が必要なのだろうか」という新たな疑問を見いだす活動等が想定される。

理科【中学校第3学年】

◆ 授業改善のポイント

- 単元全体を見通した「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、生徒の実態に応じて、基礎的・基本的事項の定着を図りつつ、「理科の見方・考え方」を適宜働かせる授業デザイン、授業改善を継続していく必要がある。
- 事象提示の場面では、既習事項や生活場面を想起、活用したり、生じた疑問や問題に対して解決可能か検討したりしながら、問題を見いだし、自らの言葉で表現させる。
- 仮説・実験企画の場面では、考察の妥当性を高めるために、計画・企画した観察・実験の結果から何が分かればよいのか、探究の見通しを確実にもたせるようにする。
- 考察の場面では、得られた結果を分析・解釈して、関係性を見いだすために、表やグラフ、モデル等を用いて視覚化し、見通しと異なる場合は、操作の不具合や器具の不備、他の要因の有無等を検討させる等、科学的な探究を深めさせたい。

◆ 正答の状況

年 度		令和7年度
IRT スコア	県	493
	全国	503

年 度		令和4年度
平均正答数	県	10.2 問 / 21 問
	全国	10.4 問 / 21 問
平均正答率	県	49%
	全国	49.3%

◆ 今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成 果：科学的な探究を通してまとめたものから、新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかを問う問題について、一定の成果が見られる。

課題①：直列回路・並列回路の性質やCl（塩素の原子記号）、呼吸を行う生物、気圧に関する身の回りの事象等、全4領域にわたる基礎的・基本的事項を問う「知識・技能」に関する問題の正答率が低い。

課題②：「考察」をより確かなものにするために、知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を企画し、予想される実験の結果の見通しを説明できるかを問う問題の正答率が低い。

◆ 成果が見られた問題の概要

【設問の概要】水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する。

1(6) 水道水、精製水について探究したことを発表しています。

水道水について

・河川の水などを顕微鏡で観察すると、いろいろな生物がいるので、安全に飲むための工夫をしている。

・河川の水などを浄水施設でろ過し、塩素を注入したものを水道水として利用している。

精製水について

・理科の実験で使用する精製水は、水道水を蒸留したり、ろ過したりしてつくられ、販売されている。

・精製水とミネラルウォーターの違いは何かを現在調べている。

上の発表を見て、水道水や精製水に対し、(略)あなたの振り返りを書きなさい。

設問番号	1(6)	【「エネルギー」領域】(2)身の回りの物質
平均正答率 (%)	本県 78.5	全国 79.4
	差 -0.9	自校

解答類型 精製水は水道水を蒸留したり、ろ過したりしているということが分かり、ミネラルウォーターはどのようにしてつくられているのかについて、さらに疑問を感じたので、調べてみたいと思いました。また、身近な水にはどのような種類があるのか気になりました。

【指導継続のポイント】

「振り返り」を設定する

- 授業の終末に、探究の過程をタブレット端末やワークシート等に記録する「振り返り」を設定することが重要である。その際、単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに分かったことを記録することに加え、「生じた新たな疑問」、「自分の考えが探究を通じて変化したこと」、「身近な生活との関連」について、記述する指導を奨励、継続してほしい。

◆ 課題が見られた問題の概要①

9(2) クリーンルームの他に気圧を利用している最も適切な事象を1つ選びなさい。



【設問の概要】 気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる。

設問番号 9(2) 【「地球」領域】 (4) 気象とその変化

平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	52.8	58.1	-5.3	

解答類型

ストローを使って飲み物を吸い上げる

【問題点】

日常生活における現象を自然の事物や現象と関連付けて捉えることができていない。本問の大気圧だけでなく、「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」の全4領域にわたって基礎的・基本的事項にも関わらず、定着されていない傾向が見られる。(平均正答率 28~52%)

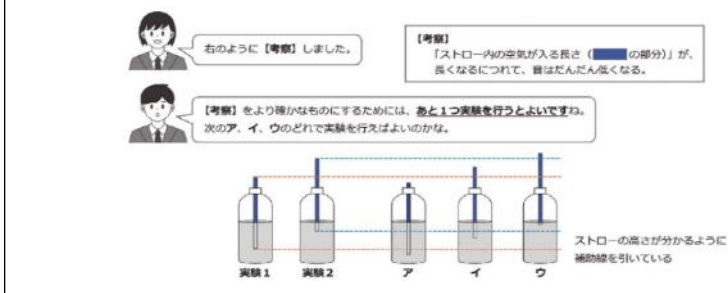
【改善点】

「単元を貫く問い」をもたせる

- 単元の導入や各授業の事象提示の場面で、これまでの既有概念や生活経験と初めて出会った自然の事物や現象がうまく結びつかない場面を設定することで、「おかしいぞ」、「なぜだろう」と直感的に感じ取ったり、「知りたい」、「分かった」、「解決したい」と主体的に探究したりするような「単元を貫く問い」をもたせるようにしたい。
- 例えば、本問については、単元初めに水を入れたコップに厚紙（網でもよい）でふたをして、逆さまにしたらどうなるかを提示し、「生活の中で気圧が関わっている現象をどのような基準・観点で分類できるか」を意識させ、気圧に関する学習をスタートし、単元全体を終了後にタブレット等を活用し全体で共有すること等が想定される。

◆ 課題が見られた問題の概要②

2(1) 考察をより確かなものにするために1つ実験を追加したら、ア、イ、ウのうちどの実験を選びますか。(略) また、実験を行ったときにオシロスコープの波形から何が分かればよいのか、振動数という言葉を使って書きなさい。



【設問の概要】 考察をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる。

設問番号 2(1) 【「エネルギー」領域】 (1) 身近な物理現象

平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	13.4	14.0	-0.6	

解答類型 (イもしくはウ)

イの解答例 実験1より振動数が少なく、実験2より振動数が多くなることが分かればよい。
※ ウの解答例は改善点の例を参照

【問題点】

考察の妥当性を高めるために、企画した観察、実験の結果から何が分かればよいのか、探究の見通しをもたせることができていない。(平均正答率 13.4%)

【改善点】

比較する対象を明確にする、修正前の考えを残す。

- 関係性を検討する際には、比較する対象を「〇〇と比べて」のように文章表現で明確にするとともに、考えを修正した場合は修正前の考えを消さずに残しておき、振り返りの際、自己の変容を実感させることにより、考察の妥当性を高めていくとよい。

例 「ウ、振動数が少なくなるということが分かればよい」

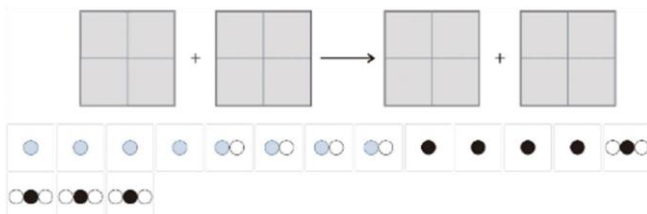
(修正後) → 実験2よりさらに少なくなる

※ 「中学校理科」では、IRTバンド別に解答タイプの割合を示したグラフを基に、どのように分析・指導していくべきかを示します。

◆ IRTバンド別に解答タイプの割合を示したグラフ（GP分析図）を基にした分析・指導①

5(2) (ドライアイス中でマグネシウムが燃焼する動画を見た後)
マグネシウム原子●、二酸化炭素○●○、酸化マグネシウム●○、炭素●と表したとき、
酸化マグネシウムと炭素の化学変化はどのように表すことができますか。

【出題形式（ドラッグ＆ペーストで解答）】



【設問の概要】 化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験結果を分析・解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかみる。

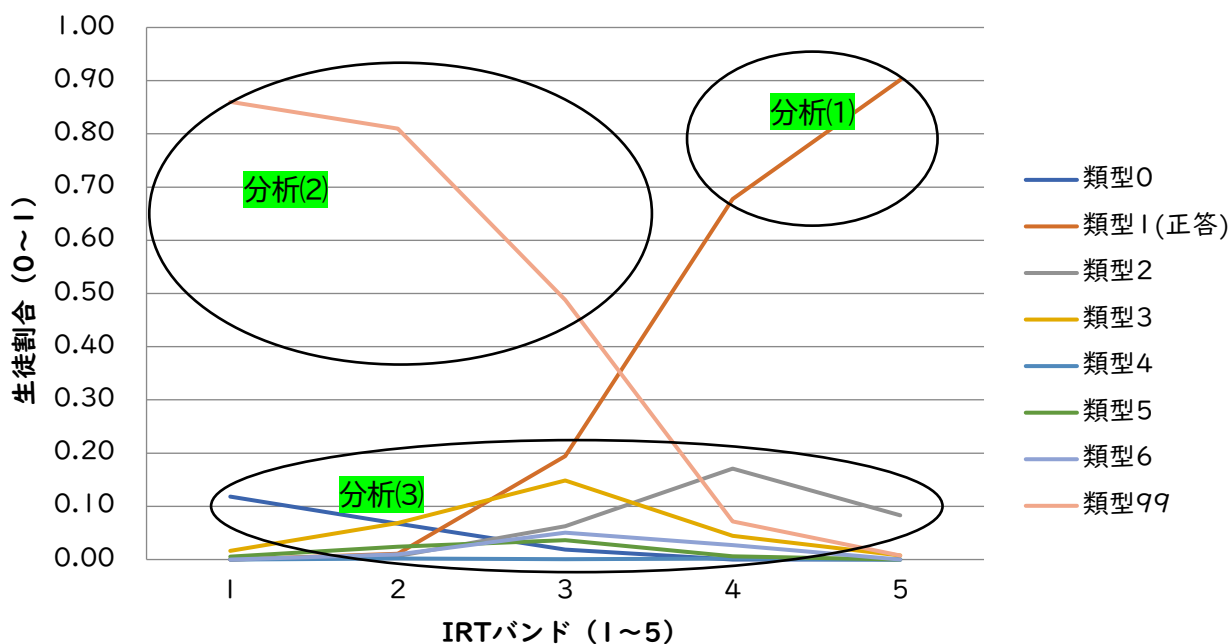
設問番号 5(2) 【「粒子領域」】 (4)化学変化と原子・分子

平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	29.8	35.6	-5.8	

【解答類型（正答）】



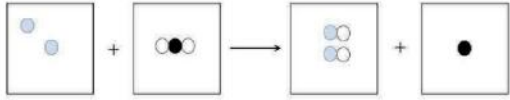
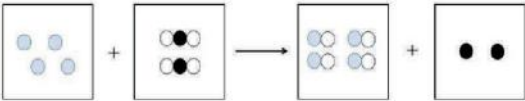
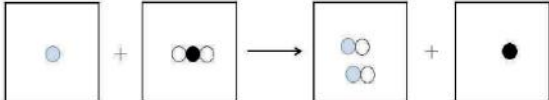
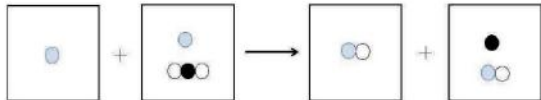
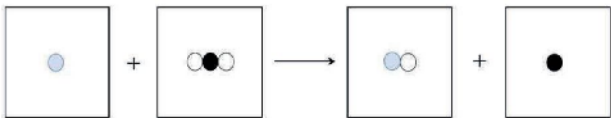
GP分析図（IRTバンド × 本県生徒割合）



※各類型の詳細は次頁に掲載

【分析及び指導の重点】

- (1) IRTバンド4, 5に属する7~9割の生徒は、正答の類型1を解答していることから、このバンドに属する生徒は、物質を正しく原子や分子のモデルで表すことや化学変化の前後で原子の種類と数が変化しないこと、モデルの数は最も簡単な整数比で表すことを理解していると捉えられる。
- (2) IRTバンド1, 2に属する8割以上、バンド3の約5割の生徒は、解答類型99の「上記以外の解答」である。解答類型99と解答している生徒は、実験の様子の動画等から「反応する物質」と「生成してできた物質」については整理できていないと考えられることから、そもそも「何が反応して、何が生成したのか」を理解させる指導が求められる。
- (3) 類型2~6と回答している生徒は、「反応する物質」と「生成してできた物質」については整理できている。よって、具体的な指導としては、「質量保存の法則」を基に化学変化の前後で原子の種類と数が変化しないよう数合わせをさせたり、気体は分子、金属は原子で表すことに留意させたりすることで定着を図りたい。

問題番号		解 答 類 型	反応率 (%)	正答
5	(2)	1 物質を正しく原子や分子のモデルで表し、化学変化の前後で原子の種類と数が変化していない。かつ、モデルの数は、最も簡単な整数比で表されている。 例 	全国 30.4 本県 23.3	◎
		2 物質を正しく原子や分子のモデルで表し、化学変化の前後で原子の種類と数が変化していない。しかし、モデルの数は、最も簡単な整数比で表されていない。 例 	全国 5.4 本県 5.9	○
		3 物質を正しく原子や分子のモデルで表しているが、化学変化の前後で原子の種類や数が変化している。 例 	全国 8.4 本県 9.3	
		4 類型1と原子の種類と数は同一であるが、1つの枠に複数の物質のモデルを当てはめているもの。 例 	全国 0.1 本県 0.1	
		5 「マグネシウム＋二酸化炭素→酸化マグネシウム＋炭素」を、それぞれの枠に物質のモデル1つで表している。 例 	全国 3.2 本県 2.4	
		6 左辺が生成物、右辺が反応物として化学変化をモデルで表している。 例 	全国 3.6 本県 3.1	
		99 上記以外の解答	本県 55.2	銅 44.3
		0 無解答	本県 3.6	銅 4.6

(N=225,477人)

◆ IRTバンド別に解答類型の割合を示したグラフ（GP分析図）を基にした分析・指導②

8(2)下線部の考えが正しいというためには、ボーリング地点③のボーリングの結果が、どのようになればよいか。■を必要な数だけ適切な位置に移動させ、最も適切なボーリング地点③の結果を示しなさい。

【出題形式（ドラッグ＆ペーストで解答）】

図2はボーリング地点①、②、④の結果です。
この結果から、■の地層は、
『■は地表面の下に存在する
・同じ厚さである
・ボーリング地点②と③の間に断層が一つある』
と考えました。

Aさん

Aさんの下線部の考えが正しいなら、ボーリング地点③の結果が予想できますね。

ボーリング地点③の結果は、どのようになっているのかな。

図1 Aさんの住んでいる地域

【ボーリング調査の結果】

ボーリング地点① ボーリング地点② ボーリング地点④

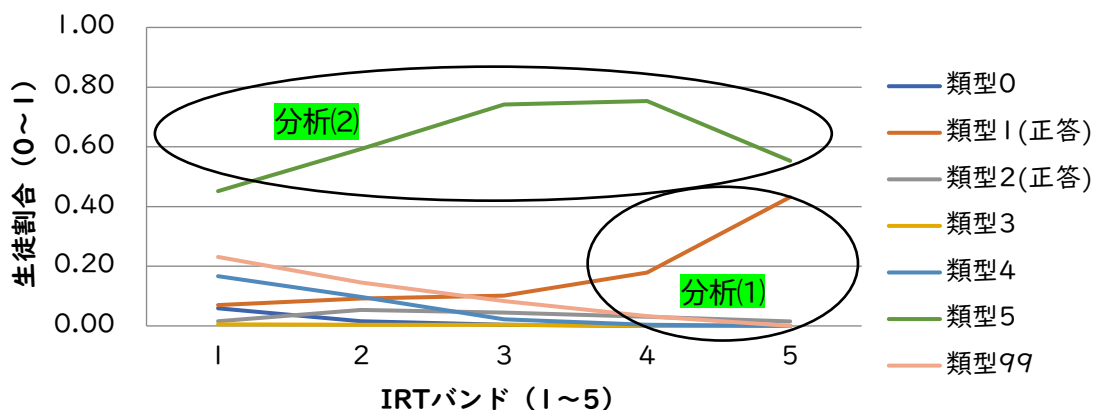
■は、同じ種類の地層を示しています。

【設問の概要】大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせ、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかをみる。

【解答類型（正答）】

設問番号	8(2)	【「地球領域」】(2)大地の成り立ちと変化
平均正答率 (%)	本県 16.5	全国 18.0 差 -1.5 自校

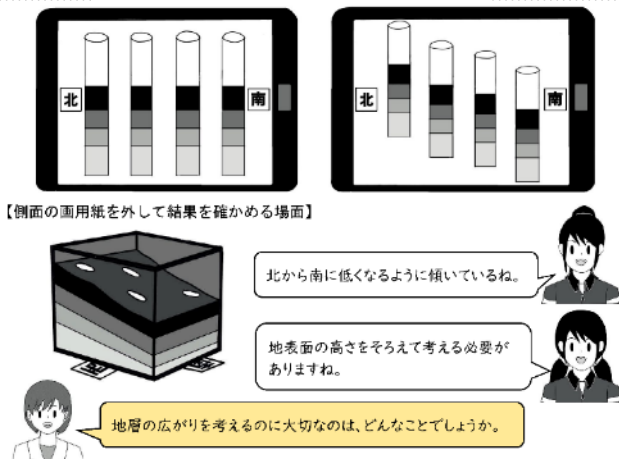
GP分析図（IRTバンド × 本県生徒割合）



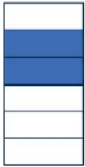
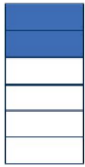
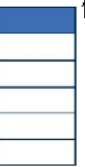
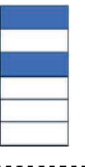
※各類型の詳細は次頁に掲載

【分析及び指導の重点】

- 解答類型1の生徒（IRTバンド4、5の2～4割）は、ボーリング調査の様子から、西から東へ下がるように傾いていることを見だし、ボーリング地点の距離から傾きの度合いを推測できていることから、上から2番目、3番目を該当の地層と選択できている。（解答類型2は傾きが誤っているが、正答扱い）
- 解答類型5の生徒は全バンドで5～8割に達している。層が同じ厚さであることは理解しているが、断層やその位置、地層の傾きに注目できず傾きが誤っている傾向にある。
具体的な指導としては、右図のように寒天でできた「地層モデル」を用いて、時間的・空間的な見方を働かせ「最低何本ボーリングすれば見いだせるか」、「どの地点にボーリングするのが有効か」等、見通しを立てさせた上で、実験、考察させる授業展開が非常に有効である。



（図は令和7年度全国学力・学習状況調査報告書 P122 より抜粋）

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
8	(2)		
	(正答の条件) 次の (a) と (b) を満たしているもの (a) 西から東へ下がるように傾いている (b) 同じ厚さになっている		
	1 (a) と (b) を満たしている 例 	全国 14.1 本県 9.4	◎
	2 地点①から地点②までの地層の傾きより大きい、(a) と (b) を満たしている 例 	全国 4.1 本県 6.5	◎
	3 (a) を満たしているが、層の厚さが1つで (b) を満たしていない 例 1  例 2 	全国 0.2 本県 0.7	
	4 (a) を満たしているが、着目する層が離れているため (b) を満たしていない 例 	全国 3.7 本県 4.9	
	5 (b) を満たしているが、(a) を満たしていないもの 例 1  例 2 	全国 68.7 本県 67.2	
	99 上記以外の解答 本県 10.1 全国 8.1		
	0 無解答 本県 1.0 全国 1.1		

(N=225,477 人)